

陸域からの栄養塩供給とノリ養殖

【背景・目的・成果】水質汚濁防止の施策や社会的協力により、播磨灘の水質はかなり回復してきました。一方で、水中の栄養塩（特に溶存態無機窒素、DIN）が不足することによって生じる「ノリの色落ち」が、近年、兵庫県の漁業で大きな課題となっています。加古川河口域で栄養塩の動態とノリの生産状況を調べた結果、海域が貧栄養化した現状においては、陸域からの栄養塩供給源（河川、下水処理、産業排水等）が、近隣ノリ漁場への重要な窒素供給源となっていることがわかりました。

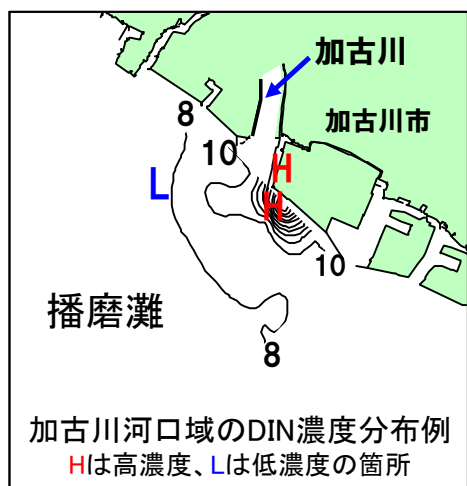


正常な乾海苔と色落ちノリの乾海苔

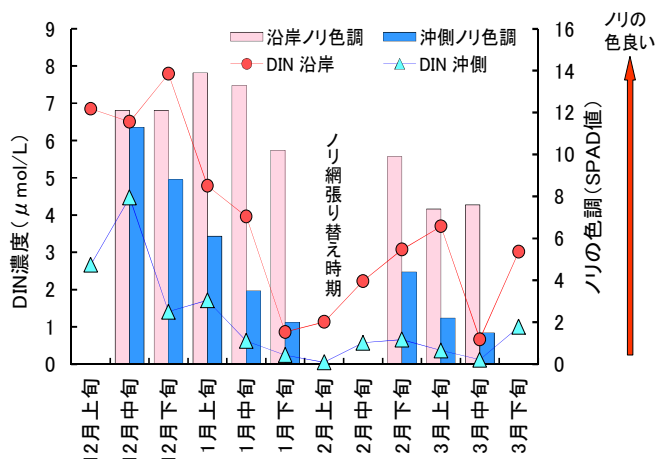
色落ちしたノリは、外観が悪い（色、つや）ほかアミノ酸量の減少等によって食味も悪くなるため、販売されないか非常に安い値段で取引されてしまいます。



加古川河口域の主な栄養塩供給源



現場観測では、加古川河口左岸沿岸にDIN高濃度域の分布が確認できる場合が多く認められました。



陸域からの栄養塩供給の影響を受けやすい漁場の沿岸側でDIN濃度は高く、ノリの色調も良好でした。

【技術の活用】調査結果は、「豊かな海」の復活を目指して、これからの瀬戸内海の水質管理のあり方を検討する情報として活用します。